

創刊号、あります!

千葉県立中央図書館には、様々な雑誌の創刊号が所蔵されています。今回は、その中から NHK 朝の連続テレビ小説「とと姉ちゃん」でも話題になっている『暮らしの手帖』をはじめ、各ジャンルから12点の雑誌を展示します。

展示期間：平成28年9月6日（火）～10月10日（月） 展示場所：県立中央図書館 3階展示ケース

『暮らしの手帖』 1948（昭和23）年9月

NHK 朝の連続テレビ小説「とと姉ちゃん」のヒロイン・小橋常子のモチーフとなった大橋鎮子さんと、花山伊佐次のモチーフとなった花森安治さんは、1948（昭和23）年9月に『美しい暮らしの手帖』（後に『暮らしの手帖』改題）を創刊しました。表紙の裏には、「これは あなたの手帖です …いつしか あなたの暮らし方を変えてしまう …これは あなたの暮らしの手帖です」と記されています。

『アサヒグラフ』 1923（大正12）年11月

朝日新聞社が、1923（大正12）年から2000（平成12）年まで刊行していた週刊グラフ誌で、日本初の日刊写真新聞として刊行されました。創刊号には、「復興途上の帝都」と題された関東大震災後の東京の様子が掲載されています。また、創刊記念として懸賞芸術写真の一等者の写真が17面に掲載されています。

『毎日グラフ』 1948（昭和23）年7月

創刊号には、「歸郷 一ソ連領から続々と一」というテーマでシベリアや樺太から日本に戻ってきた人々の写真が掲載されています。

『思想』（復刻版） 1921（大正10）年10月

岩波書店が、1921（大正10）年に刊行した雑誌です。表紙の裏には、「雑誌の多すぎる日本に今さら新しく『思想』を創刊するについては、弊社にも些か抱負があります。…『思想』は或一つの主張を宣傳しようとするものではありません。… 弊店の眞面目な努力を認めて下さることは、吾人のひそかに信ずるところであります。」と記されています。

『諸君』 1969（昭和44）年7月

文藝春秋から1969（昭和44）年7月に発行された雑誌です。表紙には『諸君』と書かれた題字の上部に、「文芸春秋のオピニオン雑誌」との表記があります。巻末の「おねがい」の欄には、この雑誌に対する願いが次のように記されています。「この新雑誌「諸君」を、単なる総合雑誌ではなく、オピニオン雑誌と名付けたのは、文字通り、多くの方々の意見をできるだけ誌面に反映させていきたいという願いからです。…」

『季刊 社会思想』 1971（昭和46）年5月

創刊のことばの中には「…この雑誌は、社会思想の研究の、…事情に立脚して社会思想の研究者たちのあいだに、インターディシプリナリな、ゆるやかな組織と共通の討論の場をつくりだすことを目的としている。…」と記されています。

『ジュリスト』 1952（昭和27）年1月

有斐閣から実用法律雑誌として登場しました。冒頭の「創刊のことば」の中に、『ジュリスト』は法学を論ずることを目的とするよりも、むしろ一般社会事象を法的に取扱うことを念願する。一般に法律問題と考えられることだけでなく、重要な社会的問題について、その法的な意義を迅速に報導し、正しく解説し、中世な批判をよびおこそうとする。」と編集者の思いが記されています。

『法律時報』 1929（昭和4）年12月

日本評論社から刊行されました。「發刊の辭」の中で『法律時報』を刊行した理由として「先づ第一に、吾國には法律に關する重要な時事問題に對して適時に適切な解説乃至權威ある評論を與へてゐる雑誌がない。…」などと記されています。

『判例タイムズ』（復刊）1950（昭和25）年4月

1949年3月に5号をもって、休刊となつたのち、1950年4月に復刊されました。復刊のことばの中には、「われわれは、深い叡智と、廣い知識と、高邁な精神とを以て、正しい裁判の在り方を考え、判例の研究と法律の實踐を通じて、わが國の法律文化向上をはかりたいと切に思う。…こゝに復刊しえたことを深くよろこぶとともに、願わくは、わが國法律文化の向上を念ぜられる人々の、今後のより熱烈なご協力を祈つてやまない。」と記されています。

『赤い鳥』（復刻版）1918（大正7）年7月

鈴木三重吉が創刊した童話と童謡の児童雑誌で、日本の近代児童文学・児童音楽の創世記に重要な影響をあたえた雑誌です。1918年に創刊され、1936年に廃刊となりました。創刊号には、芥川龍之介の「蜘蛛の糸」（創作童話）、泉鏡花の「あの紫は」（創作童話）などの作品が収録されています。

『馬酔木』（復刻版）1903（明治36）年6月

明治時代の短歌雑誌で、1908（明治41）1月に終刊となりました。第4巻3号まで全32冊。正岡子規の没後、“根岸短歌会”の機関誌として門下が創刊。編集同人として伊藤左千夫、長塚節などが名をつらねましたが、実質的には発行所を自宅においた伊藤左千夫が中心でした。

『すばる』 1970（昭和45）年6月

集英社から発行された文芸季刊誌です。第1号には、井上靖や三浦朱門の小説や高階秀爾の論説などが掲載されています。また、編集者の手帖には、以下3点編集方針が記されています。

1. 文学を現代の文化的基盤のなかで捉えなおす。
2. 縦軸に日本の伝統を、横軸にアジア・アフリカをも含む、現代の世界をすえ、変容の時代の本質的価値をさぐる。
3. 現代の文学的所産の最良のもののみを伝統的・実験的の別なく収載する。